

## 概要版

### エネルギー回収型一般廃棄物処理施設及び新最終処分場の建設候補地について

#### 1 建設候補地の絞込みまでの主な経緯

年月	内 容
令和元年 9月27日	第1回施設整備検討委員会 ○施設整備基本計画について
10月18日	エネルギー回収型一般廃棄物処理施設整備候補地選定委員会・一般廃棄物最終処分場各候補地選定委員会から整備候補地選定結果報告書提出
10月23日	管理者・副管理者会議 ○最終選考候補地の選考について 組合議会議員全員協議会 ○最終選考候補地について 記者会見 ○最終選考候補地について
11月6日	第2回施設整備検討委員会 ○最終選考候補地について
11月15日	組合広報紙「くらしの情報」発行 ○最終選考候補地の選考について
12月1日～ 令和2年 1月8日	第1回住民説明会（うち、自治会等説明会4か所） ○最終選考候補地の選考について （12会場368人参加）
1月14日	第3回施設整備検討委員会 ○施設整備基本方針について ○候補地の絞込み方法について
2月1日	組合広報紙「くらしの情報」発行 ○第1回住民説明会について
2月20日	第4回施設整備検討委員会 ○施設整備基本方針について ○候補地の絞込み方法について
3月25日	第5回施設整備検討委員会 ○施設整備基本方針について ○候補地の絞込み方法について ○建設場所の検討状況について
4月1日	組合広報紙「くらしの情報」発行 ○住民説明会の延期 ○候補地の絞込み方法（案）などへの意見募集
4月22日	視察（施設整備検討委員会） ○一関清掃センター、大東清掃センター、舞川清掃センター
6月2日	（第6回施設整備検討委員会） ○中間処理施設の処理方式についてほか
6月23日	第7回施設整備検討委員会 ○候補地の評価の考え方について

年月	内 容	
7月3日～ 7月8日	第2回住民説明会	○各候補地の建設場所の検討状況 (10会場158人参加)
7月28日	(第8回施設整備検討委員会)	○中間処理施設の処理方式についてほか
8月12日	第9回施設整備検討委員会	○候補地の評価(案)について
8月19日	現地確認(施設整備検討委員会)	○エネルギー回収型一般廃棄物処理施設 候補地(4か所) ○新最終処分場候補地(4か所)
8月31日	第10回施設整備検討委員会	○候補地の評価(案)の検討について
9月1日	組合広報紙「くらしの情報」発行	○第3回説明会の案内 ○第2回説明会について
9月9日	自治会等説明会(千厩まちづくり協議会)	○各候補地の建設場所の検討状況
9月11日～ 9月16日	第3回住民説明会	○候補地の検討状況 (10会場149人参加)
9月30日	第11回施設整備検討委員会	○候補地の評価(案)の検討について
10月16日	第12回施設整備検討委員会	○候補地の評価(案)の検討について
11月1日	組合広報紙「くらしの情報」発行	○第4回説明会の案内 ○第3回説明会について
11月6日～ 11月10日	第4回住民説明会	○候補地の評価(案)について (8会場126人参加)

## 2 施設整備の概要について

### (1) 施設整備基本方針…資料1

一般廃棄物の処理を行う施設は、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的とした適正処理が求められてきた。さらに、近年では処理技術の進歩及び循環型社会の進展から、廃棄物の処理過程で発生するエネルギーの高効率回収や災害対策の強化に資する施設としての役割も高まっている。

このような状況を踏まえ、新施設整備の基本方針を次のとおり設定した。

#### ア エネルギー回収型一般廃棄物処理施設（新処理施設）

- ① 安定性に優れた安全な施設
- ② 環境に配慮した施設
- ③ 廃棄物を資源として活用できる施設
- ④ 災害に強い施設
- ⑤ 経済性に優れた施設

#### イ 新最終処分場

- ① 安定性に優れた安全な施設
- ② 環境に配慮した施設
- ③ 災害に強い施設
- ④ 経済性に優れた施設

(2) 新処理施設の処理方式（案）…資料2

可燃ごみの処理には複数の技術があることから、当組合が中間処理施設を整備するに当たっては、国内で導入実績のある処理方式を評価し、一関市及び平泉町から発生する可燃ごみの量・質や地域の実情に応じた最適な処理方式とした。

そこで、現在、国内で稼働している処理方式について、施設整備基本方針の項目ごとに利点と課題を整理してそれぞれの項目において優れた処理方式を選定し、さらに総合的に評価した。

評価項目ごとの評価一覧

処理方式		安定性に優れた安全な施設	環境に配慮した施設	廃棄物を資源として活用できる施設	災害に強い施設	経済性に優れた施設
焼却+溶融	焼却	○	○	○	○	○
	焼却+灰溶融			○	○	
	ガス化溶融			○	○	○
非焼却	炭化				○	
	ごみ燃料化					
	トンネルコンポスト					
	高速堆肥化		○			
	バイオガス化					

当組合における中間処理施設の処理方式は、焼却方式が最適であると評価した。

これに加え、堆肥化など、資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか、引き続き検討していく。

最適と評価した処理方式	<p style="text-align: center;"><b>焼却方式</b></p> <p>（堆肥化など、資源化率の高い処理方式を付加的に導入できないか、引き続き検討）</p>
-------------	--

(3) 新最終処分場の施設形式（案）…資料3

最終処分場の施設形式にはオープン型とクローズド型があることから、当組合が最終処分場を整備するに当たっては、それぞれの施設形式を評価し、一関市及び平泉町の可燃ごみ、不燃ごみを処理して発生する焼却残さ、不燃残さ等の最終処分量や質に応じた最適な施設形式とした。

そこで、各施設形式について施設整備基本方針の項目ごとに利点と課題を整理してそれぞれの項目において優れた施設形式を選定し、さらに総合的に評価した。

評価項目ごとの評価一覧

処理方式	安定性に優れた安全な施設	環境に配慮した施設	災害に強い施設	経済性に優れた施設
オープン型	○	○	○	○
クローズド型		○		

当組合における最終処分場の施設形式は、オープン型が適すると評価した。

適すると評価した施設形式	オープン型
--------------	-------

(4) 新処理施設の施設規模（案）…資料4-1、資料4-2

処理量が最大となる稼働開始年度（令和9年度）の焼却対象ごみの排出量を基に算出した。

令和9年度の焼却対象ごみ量は、26,324 t/年と見込まれる。

$$\begin{aligned} \text{施設規模 (t/日)} &= \text{日平均処理量} \div \text{実稼働率} \div \text{調整稼働率} \\ &= (26,324\text{t/年} \div 365\text{日}) \div 0.767 \div 0.96 = 97.9 \text{ t/日} \end{aligned}$$

また、環境省の「廃棄物処理施設整備計画」において、大規模な災害が発生しても一定期間において処理が完了するよう、広域圏ごとに一定程度の処理能力に余裕を持った施設を整備することが重要であるとされている。

このため、直近10年間に発生した単年度当たりの災害廃棄物の最大量497 tと、受け入れた単年度当たりの他市災害廃棄物の最大量1,515 tの合計2,012 tから、災害廃棄物処理量を施設規模の7.6%程度と見込み、施設規模を次のとおり設定した。

$$\begin{aligned} 97.9 \text{ t/日} \times (1 + (\text{災害廃棄物}497 \text{ t} + \text{他市災害廃棄物}1,515 \text{ t}) \\ \div \text{焼却対象ごみ量}26,324 \text{ t}) &= 105.4 \text{ t/日} \approx 106 \text{ t/日} \end{aligned}$$

施設規模：106 t/日

(5) 新最終処分場の施設規模（案）…資料5-1、資料5-2

最終処分場の容量は、循環型社会形成推進交付金では、15年程度の期間において埋立が可能とされていることから、令和8年度から令和22年度を第1期、令和23年度から令和32年度を第2期として施設規模を算出した。

最終処分する対象物は、焼却残さ及び不燃残さとし、中間処理施設のごみ処理量から算出した。

第1期（令和8年度から令和22年度までの15年間）の容量： 80,600<sup>m</sup>

第2期（令和23年度から令和32年度までの10年間）の容量： 46,200<sup>m</sup>

合計（令和8年度から令和32年度までの25年間）の容量： 126,800<sup>m</sup>

(6) リサイクル施設の整備方針…資料6-1、資料6-2

当面は既存施設を使用し、将来的には中間処理施設の敷地に統合整備する。

ただし、国が検討を進めるプラスチック製品の資源化について新たな制度が明らかになった時点で、改めて施設整備の方向性を検討する。

### 3 候補地の評価について

#### (1) 候補地の絞り込み方法…資料7

エネルギー回収型一般廃棄物処理施設、新最終処分場ともそれぞれ4か所の整備候補地から令和2年度中にそれぞれ1か所の建設候補地を絞り込むに当たり、候補地の絞り込み方法を次のとおりとする。

候補地の絞り込み方法

ア 施設整備基本方針の各区分ごとに比較検討する項目を設定し、数値化できる項目は数値化して比較評価する。

イ 数値化できない項目は、利点、課題などを整理して比較評価する。

ウ ア及びイの総合評価により候補地の絞り込みを行う。

#### (2) エネルギー回収型一般廃棄物処理施設（新処理施設）の候補地の評価…資料8

##### ① 安定性に優れた安全な施設

###### ○ 項目ごとの優位性の評価結果

「受電環境」……………優劣はない

「給水環境」……………優劣はない

「配水管までの距離」……優劣はない

「亜炭採掘鉱区」……………「滝沢字石法華ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」

「配慮を要する構造物」…「真柴字堀場ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」

「土質」……………「滝沢字石法華ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」

これらのことから、「安定性に優れた安全な施設」の区分において最も優位な候補地は、「弥栄字一ノ沢ほか」、次いで「滝沢字石法華ほか」、次いで「真柴字堀場ほか」と評価した。

##### ② 環境に配慮した施設

###### ○ 項目ごとの優位性の評価結果

「交通量」……………優劣はない

「交差点位置」……………「弥栄字一ノ沢ほか」

「取付道路」……………優劣はない

「景観との調和」……………優劣はない

「自然環境への影響」……「弥栄字一ノ沢ほか」

「生活環境への影響」……優劣はない

これらのことから、「環境に配慮した施設」の区分において最も優位な候補地は、「弥栄字一ノ沢ほか」と評価した。

③ 廃棄物を資源として活用できる施設

- 項目ごとの優位性の評価結果

「資源の活用先」……………優劣はない

これらのことから、「廃棄物を資源として活用できる施設」の区分において候補地ごとの優劣はないと評価した。

④ 災害に強い施設

- 項目ごとの優位性の評価結果

「予測される自然災害の種類」…優劣はない

「施設建設の阻害要因」……………優劣はない

これらのことから、「災害に強い施設」の区分において候補地ごとの優劣はないと評価した。

⑤ 経済性に優れた施設

- 項目ごとの優位性の評価結果

「造成費」＋「施設建設費」＋「取付道路整備費」＋「用地取得費」

＋「運転管理費」＋「収集運搬費」……………優劣はない

これらのことから、「経済性に優れた施設」の区分において候補地ごとの優劣はないと評価した。

⑥ その他

- 項目ごとの優位性の評価結果

「総合計画・土地利用計画との整合性」…該当なし

「協働による地域づくり」……………比較に至らず

「利用者の利便性」……………「滝沢字石法華ほか」、「滝沢字道目木ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」

「想定地権者数」……………優劣はない

「想定筆数」……………優劣はない

「文化財」……………「滝沢字石法華ほか」、「真柴字堀場ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」

これらのことから、「その他」の区分において最も優位な候補地は、「滝沢字石法華ほか」、「弥栄字一ノ沢ほか」、次いで「滝沢字道目木ほか」、「真柴字堀場ほか」と評価した。

上記の結果をまとめると、下表のとおりである。

総合評価（区分別）

候補地	安定性に優れた安全な施設	環境に配慮した施設	廃棄物を資源として活用できる施設	災害に強い施設	経済性に優れた施設	その他
滝沢字石法華ほか	○		□	□	□	◎
滝沢字道目木ほか			□	□	□	○
真柴字堀場ほか	△		□	□	□	○
弥栄字一ノ沢ほか	◎	◎	□	□	□	◎

- ※ 最も優位と評価した候補地……◎  
 2番目に優位と評価した候補地…○  
 3番目に優位と評価した候補地…△  
 優劣はないと評価した区分……□

各区分の評価を総合した結果、中間処理施設の候補地は、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分において最も高い評価を得た「弥栄字一ノ沢ほか」が最適であると評価した。

最適と評価した候補地	弥栄字一ノ沢ほか
------------	----------

### (3) 新最終処分場の候補地の評価…資料 9

#### ① 安定性に優れた安全な施設

##### ○ 項目ごとの優位性の評価結果

「受電環境」……………優劣はない

「給水環境」……………「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「配水管までの距離」……………「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「亜炭採掘鉱区」……………「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」、「長坂字長平ほか」

「湧水・表流水」……………「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「土質」……………「千厩字北ノ沢ほか」

これらのことから、「安定性に優れた安全な施設」の区分において最も優位な候補地は「千厩字北ノ沢ほか」、次いで「金沢字長沢ほか」、次いで「滝沢字駒場ほか」と評価した。

#### ② 環境に配慮した施設

##### ○ 項目ごとの優位性の評価結果

「交通安全」……………「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「排水環境」……………「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「景観との調和」……………優劣はない

「自然環境への影響」……………優劣はない

「生活環境への影響」……………優劣はない

「周辺農地への影響」……………優劣はない

これらのことから、この区分において最も優位な候補地は、「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」と評価した。

#### ③ 災害に強い施設

##### ○ 項目ごとの優位性の評価結果

「予測される自然災害の種類」…優劣はない

「施設建設の阻害要因」……………優劣はない

これらのことから、「災害に強い施設」の区分において候補地ごとの優劣はないと評価した。

④ 経済性に優れた施設

- 項目ごとの優位性の評価結果

「造成費」＋「施設建設費」＋「取付道路整備費」＋「用地取得費」  
 ＋「運転管理費」＋「収集運搬費」

……………「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

これらのことから、「経済性に優れた施設」の区分において最も優位な候補地は、「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」と評価した。

⑤ その他

- 項目ごとの優位性の評価結果

「総合計画・土地利用計画との整合性」…該当なし

「協働による地域づくり」……………比較に至らず

「利用者の利便性」……………「滝沢字駒場ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

「想定地権者数」……………優劣はない

「想定筆数」……………優劣はない

「工事環境」……………「金沢字長沢ほか」、「千厩字北ノ沢ほか」

これらのことから、「その他」の区分において最も優位な候補地は、「千厩字北ノ沢ほか」、次いで「滝沢字駒場ほか」、「金沢字長沢ほか」と評価した。

上記の結果をまとめると、下表のとおりである。

総合評価（区分別）

候補地	安定性に優れた安全な施設	環境に配慮した施設	災害に強い施設	経済性に優れた施設	その他
滝沢字駒場ほか	△	◎	□	◎	○
金沢字長沢ほか	○	◎	□	◎	○
千厩字北ノ沢ほか	◎	◎	□	◎	◎
長坂字長平ほか			□		

※ 最も優位と評価した候補地……………◎

2番目に優位と評価した候補地…○

3番目に優位と評価した候補地…△

優劣はないと評価した区分……………□

各区分の評価を総合した結果、最終処分場の候補地は、優劣がないと評価した評価区分を除く他の評価区分において最も高い評価を得た「千厩字北ノ沢ほか」が最適であると評価した。

最適と評価した候補地	千厩字北ノ沢ほか
------------	----------

#### 参考資料

- 別紙 1 候補地の評価
- 別紙 2 - 1 建設候補地の位置図
- 別紙 2 - 2 建設候補地の概略検討図

1 新処理施設の候補地の評価

(1) 評価項目

基本方針	評価項目
① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 配慮を要する構造物 土質
② 環境に配慮した施設	交通量 交差点位置 取付道路 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	資源の活用先
④ 災害に強い施設	予測される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
⑤ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 収集運搬費
⑥ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 文化財

(2) 区分別評価

① 「安定性に優れた安全な施設」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
受電環境	優劣はない			
給水環境	優劣はない (いずれも給水区域内)			
配水管までの距離	優劣はない (270m~640m、設備の管理上で大きな差はない)			
亜炭採掘鉱区	鉱区外	鉱区内 詳細調査が必要	鉱区内 詳細調査が必要	鉱区外
配慮を要する構造物	JR大船渡線 特別な対策が必要となる可能性あり	高压電線 特別な対策が必要となる可能性あり	構造物は確認されていない	構造物は確認されていない
土質	盛土流用に適している	盛土流用するには土質改良が必要	盛土流用するには土質改良が必要	盛土流用に支障はない
この区分において優位と評価した候補地	○		△	◎

② 「環境に配慮した施設」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
交通量	優劣はない (いずれも十分な交通安全対策が必要)			
交差点位置	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	勾配の急な坂の途中、かつ見通しが悪いカーブ付近	他の候補地に比較して勾配が緩やかで、比較の見通しが良いカーブ付近
取付道路	優劣はない (いずれも急勾配となる)			
景観との調和	優劣はない			
自然環境への影響	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	新たな土地開発を行うものであり、ある程度の環境負荷を伴う	既に土取場として使用されていた部分があり、他の候補地に比べて新たな土地開発に伴う環境負荷が少ない
生活環境への影響	優劣はない (いずれも300m以内に住宅等があり騒音などへの対策が必要)			
この区分において優位と評価した候補地				◎

③ 「廃棄物を資源として活用できる施設」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
資源の活用先	優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

④ 「災害に強い施設」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
予測される自然災害の種類	優劣はない			
施設建設の阻害要因	優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

⑤ 「経済性に優れた施設」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
初期費用 造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費	優劣はない 初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で、2.5%の差			
維持費用 運転管理費 収集運搬費	(合計 360.1 億円)	(合計 361.2 億円)	(合計 352.5 億円)	(合計 359.3 億円)
この区分において優位と評価した候補地	□	□	□	□

⑥ 「その他」の評価

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
総合計画・土地利用計画との整合性	具体的な開発計画などはなかった			
協働による地域づくり	現時点において、候補地間の比較をするには至らなかった			
利用者の利便性	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い	国道や主要地方道からの距離が比較的長く、利便性が低い	国道や主要地方道からの距離が短く、利便性が高い
想定地権者数	優劣はない (8人~28人、用地取得上の支障とはならない)			
想定筆数	優劣はない (29筆~78筆、用地取得上の支障とはならない)			
文化財	文化財は確認されていない	文化財包蔵地が近くにある	文化財は確認されていない	文化財は確認されていない
この区分において優位と評価した候補地	◎	○	○	◎

(3) 区分ごとの評価一覧

候補地	滝沢字石法華ほか	滝沢字道目木ほか (建設場所・石法華ほか)	真柴字堀場ほか	弥栄字一ノ沢ほか
基本方針 (評価区分)				
① 安定性に優れた安全な施設	○		△	◎
② 環境に配慮した施設				◎
③ 廃棄物を資源として活用できる施設	□	□	□	□
④ 災害に強い施設	□	□	□	□
⑤ 経済性に優れた施設	□	□	□	□
⑥ その他	◎	○	○	◎

# 候補地の評価

## 2 新最終処分場の候補地の評価

### (1) 評価項目

基本方針	評価項目(案)
① 安定性に優れた安全な施設	受電環境 給水環境 配水管までの距離 亜炭採掘鉱区 湧水・表流水 土質
② 環境に配慮した施設	交通安全 排水環境 景観との調和 自然環境への影響 生活環境への影響 周辺農地への影響
③ 災害に強い施設	予測される自然災害の種類 施設建設の阻害要因
④ 経済性に優れた施設	造成費 施設建設費 取付道路整備費 用地取得費 運転管理費 運搬費
⑤ その他	総合計画・土地利用計画との整合性 協働による地域づくり 利用者の利便性 想定地権者数 想定筆数 工事環境

### (2) 区分別評価

#### ① 「安定性に優れた安全な施設」の評価

評価項目	候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
受電環境		優劣はない			
給水環境		給水区域内	給水区域内	給水区域内	給水区域外
配水管までの距離		設備の管理上で大きな差はない(60m)	設備の管理上で大きな差はない(770m)	設備の管理上で大きな差はない(300m)	給水区域外
亜炭採掘鉱区		一部鉱区内 詳細調査が必要	鉱区外	鉱区外	鉱区外
湧水・表流水		表流水は主に浸透して湿地となる地形	流水はあるが、建設、維持管理上、支障はない	流水はあるが、建設、維持管理上、支障はない	多量の湧水への対策が必要
土質		高含水比のため、盛土流用には土質改良が必要	高含水比のため、盛土流用には土質改良が必要	盛土流用するのに支障はない	基盤が岩塊のため、盛土流用には適さない
この区分において優位と評価した候補地		△	○	◎	

#### ② 「環境に配慮した施設」の評価

評価項目	候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
交通安全		一般的な交通安全対策で対応可能	一般的な交通安全対策で対応可能	一般的な交通安全対策で対応可能	防護柵等の交通安全対策が必要
排水環境		近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されていない	近くの河川に漁業権が設定されている
景観との調和		優劣はない			
自然環境への影響		優劣はない(いずれも新たな土地開発であり、ある程度の環境負荷を伴う)			
生活環境への影響		優劣はない(いずれも500m以内に住宅があり騒音などへの対策が必要)			
周辺農地への影響		優劣はない(いずれも下流の水田への配慮が必要)			
この区分において優位と評価した候補地		◎	◎	◎	

#### ③ 「災害に強い施設」の評価

評価項目	候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
予測される自然災害の種類		優劣はない			
施設建設の阻害要因		優劣はない			
この区分において優位と評価した候補地		□	□	□	□

#### ④ 「経済性に優れた施設」の評価

評価項目	候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
初期費用					
造成費		初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で5%以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で5%以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で5%以内	初期費用と維持費用の合計額が、最小値との比較で20%を超える
施設建設費					
取付道路整備費					
用地取得費					
維持費用		(53.7億円)	(56.2億円)	(54.4億円)	(66.1億円)
運転管理費					
運搬費					
この区分において優位と評価した候補地		◎	◎	◎	

#### ⑤ 「その他」の評価

評価項目	候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
総合計画・土地利用計画との整合性		具体的な開発計画などはなかった			
協働による地域づくり		現時点において、候補地間の比較をするには至らなかった			
利用者の利便性		二車線道路からの距離が短く、利便性が高い	二車線道路からの距離が比較的長く、利便性が低い	二車線道路からの距離が短く、利便性が高い	二車線道路からの距離が比較的長く、利便性が低い
想定地権者数		優劣はない(5人~28人)			
想定筆数		優劣はない(8筆~47筆)			
工事環境		敷地内で掘削土の搬出や建設資材の仮置場が確保できない	施工上の大きな課題はない	施工上の大きな課題はない	敷地内で掘削土の搬出や建設資材の仮置場が確保できない
この区分において優位と評価した候補地		○	○	◎	

### (3) 区分ごとの評価一覧

候補地	滝沢字 駒場ほか	金沢字 長沢ほか (建設場所・馳場ほか)	千厩字 北ノ沢ほか	長坂字 長平ほか
基本方針(評価区分)				
① 安定性に優れた安全な施設	△	○	◎	
② 環境に配慮した施設	◎	◎	◎	
③ 災害に強い施設	□	□	□	□
④ 経済性に優れた施設	◎	◎	◎	
⑤ その他	○	○	◎	



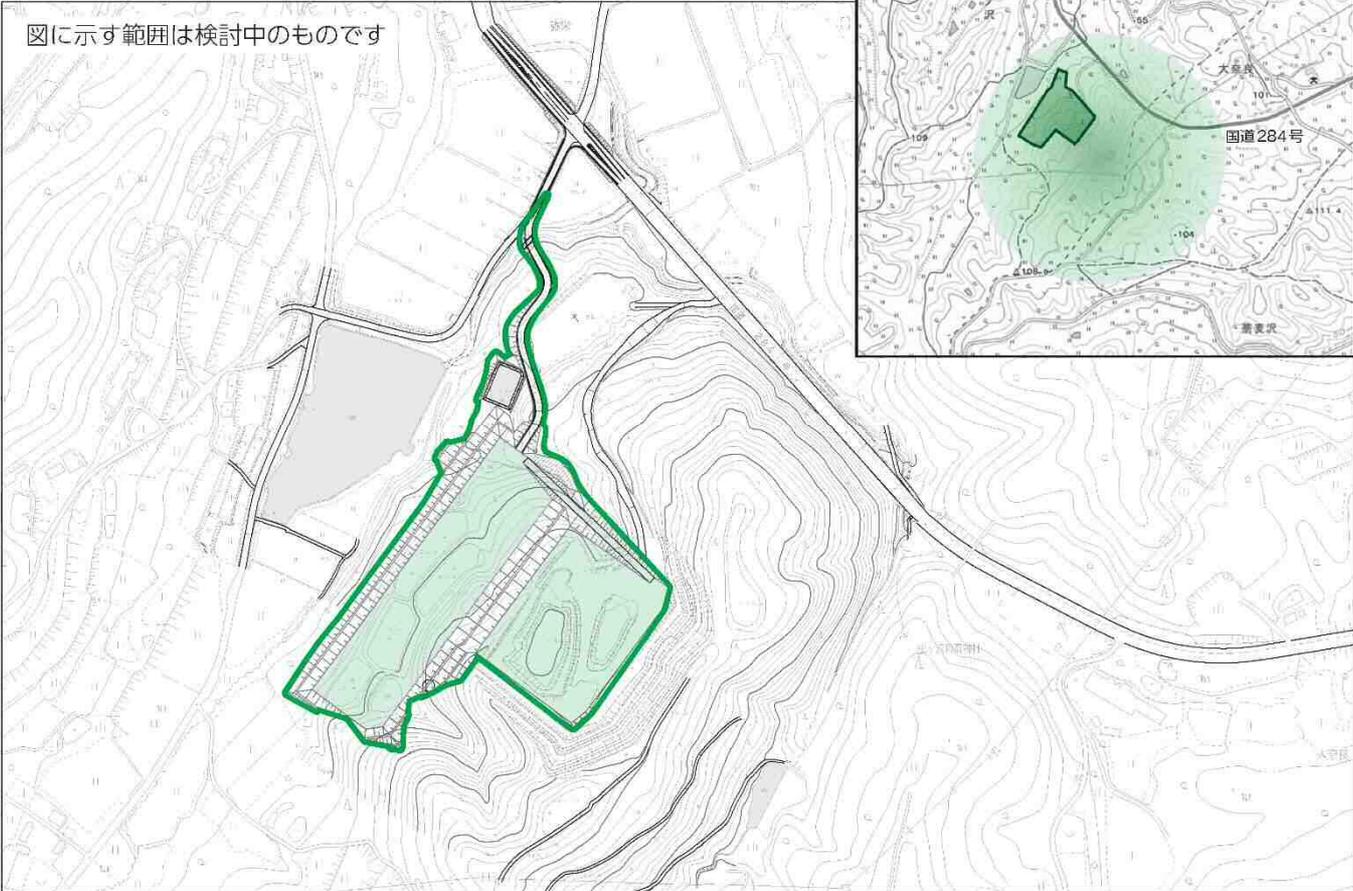
# 建設候補地の位置図



国土地理院の電子地図(タイル)に候補地の位置を追記して掲載

# 建設候補地の概略検討図

- 新処理施設建設候補地  
一関市弥栄字一ノ沢ほか



- 新最終処分場建設候補地  
一関市千厩町千厩字北ノ沢ほか

